

他者への理解を深める家庭科指導

～コミュニケーション能力を高めるグループ学習の工夫を通して～

特別研修員 生徒指導・教育相談 栗原真紀子（高等学校教諭）

生徒の実態

- 1 素直だが、自分の考えや意見を積極的に伝えることや発表することが苦手
- 2 生活の自立に対する意識が低い傾向にある

教科、生徒指導の目標

- 1 他者への理解、コミュニケーション能力の向上
- 2 生活の自立、男女の共生・協力

授業の工夫

1. ペア学習による意見交流。互いの意見を比較検討し、自分の考えをまとめる。
2. 事前調査（身近な人へのインタビュー）の実施。インタビューから子育てや保育に関する課題を見付ける。
3. グループ学習を通して他者の意見や考えを知り、生活の自立や男女の共生・協力に向けた改善策を考える。

他者を理解して関わることができる生徒

実践1

《青年期の課題・生活時間を考える》

自己の課題

- ・だらだらしている時間が長い。
- ・家事労働時間が全然無い。

生活時間から自己の課題や家族の課題を考える

意見交流で他者を理解する

ペアへのアドバイス

- ・時間の使い方が上手！
- ・携帯時間を減らして学習時間を確保！

グループでの意見交流

- ・役割分担がしっかりしている家もあり参考になった。
- ・気付いたら自分も積極的に家事を手伝う！

実践2

《保育・すこやかに育つ環境》

インタビューから子育ての喜びや大変さを知る

インタビューの感想

- ・恥ずかしかったけど貴重な時間だった。
- ・自分の知らないところで、親はすごく頑張ってくれていた。

他者への共感
男女の協力・共生の大切さに気付く

子育ての課題から、解決策を考える



発表への苦手意識が減少



課題の分類

グループ学習に関する記述

- ・意見を出し合うことの大切さに気が付いた。
- ・自分が気付かなかったことがたくさんあった。

他者理解に関する記述

- ・グループによって分け方や見る視点の違いがあって勉強になった。
- ・家族によって様々な課題があるのを知った。
- ・他の家族の話聞き楽しかった。



成果

- ペア学習やグループ学習、クラス発表などの活動により、自分の意見を伝えることに対して苦手意識を持つ生徒が、意見交流や発表を行えるようになった。
- 他者の意見や考えを理解する活動により、家族や周囲の協力、支え合うことの大切さを再認識できた。
- ペア学習やグループ学習の活動を重ねることで、学ぶことへの意欲とコミュニケーション力が高まり、学習活動がスムーズになった。

課題

- いろいろな立場の意見が出せるようグループ編成について検討しておく必要がある。またクラス発表では、グループごとに全員が話せるような指示が必要である。
- 家庭科の学習内容には様々な分野があるので、各分野で効果的にグループ学習を取り入れていけるよう指導内容を構築していくことが重要である。